

水稻



農作業メモ



水稻
吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

田植え

4月上旬より田植えが始まります。苗は、田植えの5日前位から育苗ハウスのサイドビニールを下げて、外気に充分慣らしましょう。(遅霜の場合は注意してください)

- ①田植えの適期は4月5日から15日です。
- ②植え付け本数は、坪当たり55～60株程度、1株の苗数は3～5本が標準となります。苗数が多くなると過繁茂の原因となり、倒伏や病害虫が発生しやすくなりますので注意しましょう。田植機の整備・調整は事前に必ず行ってください。
- ③植え付けの深さは活着や分けつ等に大きく影響しますので、2～3cmを目安としましょう。

水管理

暖かい日中は浅水にしますが、活着するまでは朝晩冷え込むことがありますので、新しい根が出るまでは深水にしましょう。活着後は浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつの促進に努めてください。

病害虫防除

初期では、イネミズゾウムシや葉いもち病が防除の中心となります。田植え前に必ず箱施薬を散布ムラが無いように施用しましょう。1箱当たりの散布量は50gとなります。

移植後の活着を促進する為に、活着肥としての硫酸(7kg/10a)の散布を行ってください。

尚、作業省力の為にJAでは「ハイパーCDU」の使用も可能です。この場合は、田植時の箱苗に100gをムラなく散布してください。

除草剤は、田植え後5日から15日に散布し、その後は湛水状態を5日程度保ってください。水の掛け流しや、土の表面が見えるような場合は、除草の効果が落ちます。

浅水状態で土の表面が見える場合は秋起こし時に土の移動を行い均平にしましょう。

箱施薬や除草剤の使用方法は早期水稻耕種基準に記載しています。

野菜



野菜類防除基準



野菜
坂田 沙貴
上島営農指導センター
080-1759-0091

| 病害虫防除 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|--------|---|--|---|-----|---|----------|---|---|---|----|----|-------|----|
| 病害 | 病害 | 灰色かび病 | | 立枯病 | | 黒斑病、斑点細菌 | | | | 立枯 | | 灰色かび病 | |
| | 虫害 | アブラムシ・ハダニ アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、オオタバ | | | | | | | | | | | |
| 病害 | 灰色かび病 | ボトキラー水和剤 1000倍 使用回数制限なし 発病前 | | | | | | | | | | | |
| | 斑点細菌病 | コサイドボルドー 1000倍 使用制限なし | | | | | | | | | | | |
| | 黒斑病 | Zボルドー 500倍 使用制限なし | | | | | | | | | | | |
| | 軟腐病 | [薬剤名不明] | | | | | | | | | | | |
| | うどんこ病 | カリグリーン 800～1000倍 回数制限なし 収穫前日まで (トマト・ミニトマトは除く) | | | | | | | | | | | |
| | さび病 | 硫黄粉剤50 3kg/10a ジーファイン水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで (なすは除く) | | | | | | | | | | | |
| | 虫害 | アブラムシ サンクリスタル乳剤 300倍 収穫前日まで (なす・トマト・ミニトマトは除く) 硫黄粉剤50 3kg/10a ハダニ アカリタッチ乳剤 1000～3000倍 使用制限なし 収穫前日まで | | | | | | | | | | | |
| アオムシ | デルフィン顆粒水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 | | | | | | | | | | | | |
| コナガ | ゼンターリ顆粒水和剤 1000～2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (はくさいは除く) | | | | | | | | | | | | |
| ヨトウムシ | トアローフロアブルCT 1000～2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (※オオタバコガ500～1,000倍) | | | | | | | | | | | | |
| オオタバコガ | ※上記の剤は同一種類剤(BT剤)のため、散布回数は、総計で4回まで | | | | | | | | | | | | |

病害防除

- 降雨の後に防除
- チッソが効いて軟弱な場合には注意
- 温度が下がってきたら、べと病の防除
- 乾燥してきたらうどん粉病の防除
- 雨が多い場合は細菌病、カビ病ともに予防剤散布
- 風が良く当たるところでは細菌病が多い(防風ネット利用)

虫害防除

- 強い風が吹いたら、虫が増える
- 乾燥したらダニが増える
- 雨が多いと、全般的に虫は少ない
- 虫が見えたら防除。7日～14日後に卵や蛹が成虫になるのでまた防除。

温度条件

降雨・湿度条件

生育状況

生育環境の観察+防除

やや高温・乾燥・風で多発、降雨で減

※ 防除薬剤は「薬剤の種類」、「希釈倍数」、「散布液量」、「散布回数」に注意し、基準を厳守する。

花卉



金魚草主な病害虫防除について



花卉
竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

1) 害虫

1・アブラムシ

新芽や花穂に寄生し、生育を阻害したり排泄物によるすす病を誘発して品質を悪くします。また、CMVを媒介したモザイク病の発生要因となるので早期防除を徹底します。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。

| 農薬名 | 希釈倍率 | 使用回数 |
|--------------|-------------|------|
| アドマイヤー フロアブル | 2000倍 | 5回以内 |
| オルトラン水和剤 | 1000倍～1500倍 | 5回以内 |
| モスピラン水溶剤 | 4000倍 | 5回以内 |

2・ヨトウムシ類

葉や茎、花蕾など食害します。2齢までは群生しているので早期に見つけて防除します。3齢以降は分散して食害量も多くなり、薬剤への感受性も低下します。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。

| 農薬名 | 希釈倍率 | 使用回数 |
|----------|-------|------|
| アフアーム乳剤 | 1000倍 | 5回以内 |
| コテツフロアブル | 2000倍 | 2回以内 |
| ノーモルト乳剤 | 2000倍 | 2回以内 |

3・スリップス類

葉や花卉を加害し、品質低下の原因となります。特に花に寄生した場合はカスリ状に発色不良を起こし、著しく商品価値を損ねます。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。粘着テープを使用します。

| 農薬名 | 希釈倍率 | 使用回数 |
|------------|-------|------|
| スプラサイド乳剤40 | 1000倍 | 6回以内 |
| スプラサイド水和剤 | 1000倍 | 6回以内 |
| チェス水和剤 | 3000倍 | 4回以内 |

2) 病気

1・灰色かび病

花、茎に発生します。花では水浸状、淡褐色～あめ色の小斑点が形成され、やがて花全体に病斑が広がり、淡褐色に変色して仮死します。葉では暗緑色～灰緑色、水浸状、の病斑を生じ、乾くと淡褐色になる。

茎では同様の病斑を生じ、病斑が茎を取り巻くと病斑より上部は萎凋、仮死します。多湿時には羅病部に淡褐色、粉状の分子の集塊を豊富に生じる。

防除方法…十分な換気をします。灌水はなるべく晴れた日に行います。発病株は圃場外に処分します

| 農薬名 | 希釈倍数 | 使用回数 |
|-----------|------------|------|
| トップジンM水和剤 | 1500～2000倍 | 5回以内 |
| ロブラール水和剤 | 1000～1500倍 | 8回以内 |
| ゲッター水和剤 | 1000倍 | 5回以内 |

2・菌核病

主に茎の途中や地際部に発生し、羅病株は萎凋します。病勢が進むと茎の浸された部分が変色し、やがて白色の菌糸が生え、ネズミの糞状の菌核を生じます。また、茎の内部にも菌糸が充満し、菌核の形成が認められます。菌核の生前期間は1～2年あり、これが翌年の発生源となるので、発生株は放置せず、圃場外に持ち出して適正に処理します。比較的気温が低下した冬場に多く、換気不足や多湿条件が発生を助長します。

防除方法…十分な換気をします。灌水はなるべく晴れた日に行います。

| 農薬名 | 希釈倍数 | 使用回数 |
|-----------|------------|------|
| トップジンM水和剤 | 1500～2000倍 | 5回以内 |
| ロブラール水和剤 | 1000～1500倍 | 8回以内 |
| ポリバリン水和剤 | 1000倍 | 5回以内 |

3・茎腐病

地際部の茎に発生します。最初に日中の萎凋症状が観察されます。地際部の茎がくびれ、表面から褐白色に乾腐、やがて内部に褐色が及び株全体が枯死します。葉の黄化や根の腐敗はほとんど認められません。土壌伝染によって発生するので、定植前に土壌消毒を行っておきます。

防除方法・植え付け前の土壌消毒をきちんと行います。(バスアミド微粒剤)

| 農薬名 | 希釈倍数 | 使用回数 |
|-------------|-------------|------|
| オーソサイド水和剤80 | 600倍 | — |
| トップジンM水和剤 | 1500～2000倍 | 5以内 |
| ベンレート水和剤 | 2000倍～3000倍 | 6以内 |

尚、農薬については金魚草での登録がありませんので、薬害には充分気をつけて使用してください。

果樹



3月の柑橘園管理



果樹
山下 俊二
上島営農指導センター
080-1729-1632

1. 家庭選別の徹底 (貯蔵中の管理)

1月から2月の寒波により、カンキツ類ではす上がり果の発生等が心配されています。また、デコボンや清見では今後ヤケ果の発生が予想されます。出荷時の混入が無いよう家庭選別を徹底し、出荷してください。

河内晩柑の収穫基準

河内晩柑では本格的な収穫期に入ります。収穫前には貯蔵病害の防除を徹底しましょう。

| 品 種 | 区 分 | 収穫時期 | 予 措 |
|------|-------|-----------|---------|
| 河内晩柑 | 適期採取 | 2/20～3/31 | 14日(3%) |
| | 後期採取 | 4/1～4/30 | 7日(2%) |
| | 木成り採取 | 5月以降 | — |

2. 病害虫防除

寒波により、樹勢が落ちている樹については、ハーベストオイル、ICボルドーの散布は控えましょう。

また、樹勢に問題がない樹については散布時期が遅れないようにしましょう。

農薬散布の際は収穫前日数に十分注意してください。

| 対象病害虫 | 品 種 | 農薬名 | 希釈倍数 | 備 考 |
|--------|-----|-----------|------|-------------|
| かいよう病 | 温州 | ICボルドー66D | 60倍 | 3月中旬(発芽前) |
| | 中晩柑 | | | 3月中～下旬(発芽前) |
| ミカンハダニ | 中晩柑 | ハーベストオイル | 80倍 | 3月中～下旬(発芽前) |

※12月に温州みかんに散布されなかった園では発芽前にハーベストオイルを80倍で散布してください。

3. 施 肥

| 栽培タイプ | 肥料名 | 品 種 名 | 施肥時期 | 10a当たり |
|-------|-----------------------------|-----------------|------|--------|
| 通常タイプ | 熊本果樹肥料10-7-4 ひのくに果樹9-3-3 | 極早生温州 | 3月上旬 | 4袋 |
| | | ボンカン | 3月上旬 | 5袋 |
| | 熊本デコボン8-3-3 | 清見・河内晩柑・甘夏・パール柑 | 3月上旬 | 4袋 |
| | | デコボン | 3月上旬 | 3袋 |
| 省カタイプ | アグリロング28号 | 清見・河内晩柑・甘夏・パール柑 | 3月上旬 | 5袋 |
| | | デコボン | | 5袋 |

4. 樹勢回復・着花対策

収穫が終わったら樹勢回復の為、尿素等を3回程度葉面散布してください。その後、花が少ないと予想される園では花芽分化促進を目的に、ファームメント等を3回程度葉面散布してください。

| 目的 | 薬 剤 名 | 希釈倍数 | 備 考 |
|--------|---------------------|------|----------------|
| 樹勢回復 | 尿素 | 500倍 | 収穫後3回程度集中散布を行う |
| | アミノジューシーN14 | 500倍 | |
| 花芽分化促進 | ファームメント ジューシーエース | 500倍 | 樹勢回復終了後3回程度散布 |